



川井さんが言いたかったこと

吉川 利文

ユートピアって？

ならやまに「ユートピア構想」なるものがあるという。いまは亡き、当会の創始者川井秀夫さんのご提言とか。一体どういうものをユートピアというのか、ご本人の口から聴きたいとかねて思っていたが、昨秋逝去され、ついにその機会を失った。

先日、ふと思立って「創立 15 周年記念誌」を読み返した。川井さんは、歴代会長による座談会などで「モラルの高揚」、「人間力」、「人間力の涵養」などと強調しておられる。

さらに、「回想と展望 夢・未来」の部でも、こんなことを述べておられる。創始者として書かれた冒頭の寄稿文「創立 15 周年に寄せて～一万歳のハーモニー」の中ほどに、将来展望として 4 つの目標を挙げられ、①スムーズな世代交代②市民クラブへの醸成③コミュニティの醸成、に次いで、④としてやはり「モラルの高揚」を強調されているのである。「難しい問題ですが、共同体として人間力・集団力・行動力が必要です。相互扶助・自主参画の精神性を高め創造力の培養に努めていただきたいと思います」（17 頁）と説明しておられる。またしても「モラルの高揚」「人間力」である。

たまたま、私は記念誌の編集にも関わらせていただいたので、その合間に川井さんに「人間力とかモラルの向上というのは、平たく言うとういうことなのですか」と、不遜にもお聞きしたことがある。川井さんが同じ高校の同窓生であることがそのころ偶然わかり、その気安さが手伝ったのかもしれない。

「なにを若造が…」と一蹴されるかとひやひやしたが、川井さんは、意外に気軽に、しかも明解に「一番わかりやすいことと言えば、あいさつや」と答えられた。「あいさつ？」。怪訝な顔で聞き返すと「朝、顔を合わせて挨拶しても知らん顔をす

る人がいるやろ」と続けられた。私は拍子抜けしながらも一種の感銘を覚えた。

座談会で川井さんは「人間力の涵養」について、こうも発言しておられる。「具体的に言えば『人への思いやり』『挨拶』『感謝』『労（いたわり）』など本来人間が持っている美德が少し欠如していないか、そんな思いです」（42 頁）。また「川井さんはよく『ならやまには、“良識ある個性”が必要』と言っておられた」と聞いたことがある。そうか、川井さんは、ユートピアの到達点を、人間的魅力、美德、良識があふれたコミュニティにみつけようとしたのか、と一人合点したものである。

記念誌を読み進めると、会員による「夢・未来」ひと言集でも、すでに川井さんと同じ夢を見ておられる方たちが多くいたのに驚いた。

「個性豊かな人々の集まりなので、一人ひとりが里山の自然の営みを感じながら、色々な思いや気持ちを伝えあえる仲間を作り、気持ちのいい汗を精一杯流し、悩みやストレスも吹き飛ばよう動いていきたい」

「日本は、様々な道の文化。道とは自分で体験しながら得る心の文化。私にとって、ならやまは自然と人が調和した、心がゆるむ道の駅です」――。

今年度の活動が始動するころ、朝礼で辻本事務局長が「お互い挨拶を心がけよう」「名札をつけ、新旧会員同士話しかけ合おう」と呼びかけた。内心、「ここは幼稚園か」と感じないでもなかった。が、川井さんの言葉を重ね合わせた時、「これも“川井イズム”ではないのか」との思いに駆られ、納得した。

川井さん、ごめんなさい。川井さんの片言隻句をとらえた、私のとんでもない「付度（そんたく）」かも知れません。そうだったとしたら大変失礼なことでした。でも、「ユートピア」はそんな楽園でもあってほしい、と私は願うのです。

